

＜全体分析＞		試験時間	60 分
<div>解答形式</div> <div>マーク式・記述式</div> <div>分量・難易(前年比較)</div> <div>分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)</div> <div>難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</div> <div>大問数は昨年度と同じ5題であったが、全体の総解答数は昨年度の36問に対して今年度は40問とやや増加し、総設問数が40問以上となるのは2022年度以来であった。また、2024年度入試で出題された史料問題が復活したが、表を読み取る問題は昨年度に続き今年度も出題されなかった。総解答数中の記述式解答の数は、一昨年度は16問、昨年度は14問、今年度は13問と減少傾向にある。正誤判定問題の数は、一昨年度は11問、昨年度は20問、今年度は13問で、昨年度よりは減少した。語句を記述させる問題は、一昨年度のような史料文中のものを答えさせる問題が出されたものの、難易度としては標準的な出題であった。全体の難易度は、総設問数がやや増加して昨年度に出題されなかった史料問題が見られた一方で、一昨年度の史料問題の難しさがなく、かつ表を読み取る問題が出題されなかったことから、昨年度と比べて変化なしとした。</div> <div>出題の特徴や昨年との変更点</div> <div>本学部は小問数の少ない大問を数多く並べる形式が定番であったが、2023年度から大問が5題に減少し、それ以降大問5題での出題が定着した。総解答数は昨年度の36問からやや増加して40問であった。近年の新傾向として、正誤判定問題で解答を二つ選ぶ形式の問題が出題されていたが、昨年度と今年度は出題されなかった。一方で、昨年度は出題されなかった史料問題が復活し、図版を用いた文化史問題である大問Ⅴでは一昨年度と昨年度が図版を一枚のみ使用していたのに対し、今年度は3枚使用された。なお、2023年度から今年度にかけて4年連続で美術の特徴や作風に関する知識が必要な問題が出題された。大問Ⅰでは4年連続で図版を用いた問題が出題されていたが、今年度は地図を用いた問題が出題された。</div> <div>その他トピックス</div> <div>今年度は現代史からの出題が増加した。また中国前近代史・イスラーム史・インド史からの出題が相対的に低下した。</div>			

＜大問分析＞				
番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式	世界各地の 古代文明	設問1. エジプト新王国とヒッタイトは、シリア地方の領有をめぐってカデシュの戦いをおこなった。設問3. 「現在、栽培されている穀物の中で生産量が最も多いもの」がトウモロコシであることを知らないと難しい。トウモロコシは現在のメキシコ南部を中心に栽培が始まったとされている。設問4ア. デンマーク人のトムセンではなく、スウェーデン人のアンダーソンである。エ. 雲南省ではなく四川省である。	難
II	マーク式 記述式	世界史上の メディアや 情報	設問5ア. オシリスは冥界の王であり死と復活の神であり、太陽神ではない。ウ. 女神ミトラではなく光明神アフラマズダである。設問8エ. ヨーゼフ2世の宗教寛容令は、イスラーム教徒ではなくユダヤ教徒やギリシア正教徒に対して信仰の自由を認めた。設問9イ. ケネーは代表的な重農主義者で、経済の自由化を主張したため自由貿易を批判するとは考え難い。設問11ア. 1985年、イ. 1985年、ウ. 1989年。消去法で解答するためにはイ. 「男女雇用機会均等法」の制定が1985年であると判断できるかが重要である。	標準

Ⅲ	マーク式 記述式	東アジア世界 の文字	設問1. 消去法で対応する。イ. 戦国時代の法家。ウ. 明末清初期の考証学の先駆者。エ. 19世紀後半の漢人官僚(政治家)であり、文字の解読者ではない。設問3. エ(王羲之は4世紀の人物)→ア(414年)→ウ(則天武後の在位期間は690～705年)→イ(781年)。イの大秦景教流行中国碑の建立が8世紀後半であることがわからないと解答できないため難しい。設問4. 女真文字が漢字の影響を受けた文字であることから、図に漢字の要素が見られるウを選択したい。なお、ア. ウイグル文字、イ. ヘブライ語を表すフェニキア文字、ウ. 女真文字、エ. 莫高窟の碑文(上段がランジャンナ文字、下段がチベット文字)である。設問6. 解答は問題文中に「漢字」があるものの、文脈上の判断で漢字としたが、表意文字も解答になりうるだろう。設問8. エ(1905年)→ア(1910年に開始)→イ(1919年)→ウ(1937年以降)。設問9ア. 緊張緩和(デタント)ではなくアメリカ合衆国の北ベトナム爆撃(北爆)の影響を受けて、中国ではなく日本と国交を正常化した。イ. 朴正熙ではなく金大中の事績である。ウ. 光州で発生した民主化運動が軍事力で弾圧された事件は、朴正熙の死後に発生した。	やや難
Ⅳ	マーク式 記述式	史料問題 「オスロ合意」	設問1～3は史料だけでは正答の手がかりに乏しいため、設問5～7が手がかりとなる。設問5ア. ゴ=ディン=ジェムは、南ベトナム解放民族戦線ではなくベトナム共和国の指導者で、南ベトナム解放民族戦線の結成は1960年。イ. ヤルタ会談の開催は1945年2月、日本のポツダム宣言の受諾は1945年8月である。エ. 習近平ではなく、江沢民が最高指導者の時期にマカオが返還された。また、マカオの返還は1999年である。いずれも誤文であるため正解はウと判断でき、空欄Aの国が国際連合に加盟した年が1949年であることがわかる。次に、設問6ア. 日中平和友好条約の締結は1978年、ニクソンの中国訪問は1972年である。ウ. スハルトの失脚ではなくタイの通貨であるバーツの価値が下落したことにより、1997年にアジア通貨危機が発生した。エ. イタリアはエチオピアに1935年に侵攻して36年にこの地を併合しており、撤退をしていない。いずれも誤文であるため正解はイと判断でき、史料の宣言がなされた年が1993年であることがわかる。最後に、設問7では史料の宣言がなされた6年前(1987年)に起きた抵抗運動なのでインティファダだと判断できる。以上のことから、空欄Aにはイスラエル、空欄Bにはパレスチナ、空欄CはPLOが当てはまり、設問4はエだと判断できる。	標準
V	マーク式 記述式	世界史上の 版画	今年度も文化構想学部で頻出である、作品を用いたヨーロッパ美術史に加え高麗版大蔵経が問われた。設問1ア. 太宗(李世民)の時代(7世紀前半)の詩人である。イ. 安史の乱の時代(8世紀半ば)の詩人である。ウ. 玄宗と楊貴妃の悲恋を題材とした作品を8世紀後半に残した詩人である。白居易は846年に死去しているが、図1の制作年代(868年)に「最も近い人物」といえる。エ. 太宗(李世民)の時代(7世紀前半)の訪僧である。設問4ア. ドガは印象派の画家で19世紀後半に活動した人物で、ロココ様式は18世紀に隆盛した芸術様式である。ウ. ゴッホはポスト印象派の画家で19世紀後半に活動した人物である。絵画における写実主義は19世紀半ばのフランスで生まれ、その代表的な画家であるクールベはゴッホよりも前に活動した人物。エ. マティスは野獣派(フォーヴィスム)の画家とされており、立体派(キュビズム)の画家ではない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

地歴公民_(世界史) 早稲田大学 文化構想学部 3/3

<学習対策>

全体的には、難易度は高い。今年度は2024年度に出題された史料問題が復活したが、世界史の知識を使えば解答は十分に可能であったため、昨年度の難易度と比べて変化なしとした。今後も史料を用いた出題が見られることをふまえると、本学部志望者にとって史料問題対策は必須である。文化史では写真を用いてやや難の事項を書かせることもあるので図版にも注意。今年度は特に、すべての大問で年代・時期が解答のカギとなる問題が出題されたため、単なる年号暗記ではなく、時代順に事項を並べ替える感覚や世紀を意識した学習を心掛けたい。